天竜川上流の主要な鳥類

建設省中部地方建設局
天竜川上流工事事務所

はじめに

河川や水辺にはたくさんの鳥や魚、昆虫などの動物が生活し、草花や樹木が生きています。また私たちの憩いの空間としても利用されています。近年、豊かな自然や美しい景観に対する関心が高まり、若い人からお年寄りまで日常生活の中にうるおいやゆとりを求める気運が広がっています。

河川は最も身近で日常的に接することのできる優れた自然環境の一つであり、河川のもつ自然的な価値、とりわけ多様な生態系を保持し、はぐくむことが今後の河川整備において重要な要素となってきています。自然環境の保全は私たちに課せられた重大な使命といえるでしょう。

こうしたことを背景に全国109の一級水系ならびに90の二級水系を対象に、河川を環境という観点からとらえた基礎情報の収集・整備が行われています。これが「河川水辺の国勢調査」と呼ばれているもので、私たちの天竜川上流工事事務所管内においても平成3年度より鳥類調査、魚介類調査、植物調査、底生動物調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査と逐次進めてきました。また多自然型川づくり、魚がのぼりやすい川づくりや水質改善、水辺の楽校（がっこう）プロジェクトなど新しい河川整備の方策についても鋭意取り組んでいます。

この冊子は平成7年に実施した鳥類調査の結果をもとに、天竜川上流域に生息する主要な鳥類を整理したもので、河川に興味を持っていただくことや河川の自然観察の一助になればと考え作成したものです。

川は生物の多様性を保つ上で重要な役割を果たしていることを十分確認し、今後も継続して生物情報を蓄積しつつ、多様な生息・生育環境の確保を図らなければなりません。そして地域固有の文化の育成や川と地域との密接な関係を築きあげていくために、関係の方々からのご助言を得ながら逐次内容の充実を図り、より適切な河川環境の保全や管理等を進めていきたいと考えています。

建設省天竜川上流工事事務所長
野　田　　徹

監修のことば

信州の中央の諏訪湖から伊那谷を南下し、やがて静岡県を経て太平洋に流れ込む天竜川は、わが国でも有数の大河川です。この川は長い間にわたって大雨の度に洪水を起こし、侵食や堆積を繰り返しながら瀬や淵、中洲、峡谷などの複雑な地形を形成してきました。このように土砂と水とによって形づくられた舞台の上では、さまざまな種類の植物が育ち、あるものは大道具になったり、またあるものは小道具になったりしながら、より複雑な舞台装置を用意しています。そして、そのステージの上では私たち人間を含めて、たくさんの動物たちがお互いに関わりを持ちながら精一杯演技を続けているのです。

この流域に棲んでいる野鳥たちは水の中の虫や魚を捕まえたり、河川内に生えている植物の実などをついばんだりして餌にしています。また、石のすき間や、堤防や橋、草や樹木などに巣を造り、子育てを行っている種類もいるのです。こうして、鳥たちも天竜川流域という環境に適応しながら、生態系の一構成員としてがんばって生きています。

ところが、堤防や川底が改修されたりコンクリートで橋やダムが造られたり、ごみが捨てられたりして、河川環境が少しずつ変化してきています。それによって個体数が著しく変化した種や、生活の仕方が変わってきた種が見られるようになりました。私たちは今こそ、天竜川流域の生態系を守っていくための努力をしなければならないと思います。そんな折、建設省によって「河川水辺の国勢調査」が全国の河川や湖沼において実施されることになりました。天竜川でも平成7年度に鳥類調査が行われ、膨大なデータが報告書としてまとめられました。しかし、この報告そのものはごく限られた方の目にしか触れることがありません。そこで、なんとか多くの方々に有効に活用していただきたいと考えていたところ、建設省から一般向けに調査結果を紹介する本の企画をいただき、本書の発刊となりました。

本書では天竜川を中心に生息している鳥のうち、代表的な70種について一般的な形態や生活を解説し、特徴ある生態をもった種については、「コラム」でその生活ぶりや天竜川との関わりなどについて紹介してあります。

最近になって「バードウォッチング」もさかんになり、鳥に興味を持つ方が増えてきました。その中には、鳥の姿の美しさや可愛らしさに感動する人やきれいなさえずりを楽しむ人だけでなく、種類を自分で見分ける力をつけたい人や生活を覗いてみたい人などがおられます。そんな方々にとって、この本が少しでもお役に立ち、一人でも多くの方が天竜川の鳥の今後について考えていただくことができれば幸いです。

最後に、この本を発刊する機会を与えて下さった天竜川上流工事事務所と貴重な写真を提供していただいた方々、日頃の調査から得た知見を記載して下さった皆さんに深甚なる謝意を表します。

豊丘北小学校教諭　大　原　　均
（河川水辺の国勢調査アドバイザー）

目　次

はじめに …… 1
監修のことば …… 2
観察へ出かける前に …… 5
この本の使い方 …… 6
「平成7年度天竜川上流部河川水辺の国勢調査－鳥類調査－」について …… 7
天竜川流域図 …… 8

総 説

天竜川上流の姿 …… 10
鳥類と河川環境 …… 12
鳥のからだ …… 16
鳥たちの生活 …… 18
河川の鳥の見分け方（検索表） …… 21
各論の見方 …… 24

各 論　天竜川上流の主要な鳥類

カイツブリ目（カイツブリ） …… 26
ペリカン目（カワウ） …… 27
コウノトリ目（サギの仲間） …… 29
カモ目（カモの仲間） …… 35
タカ目（タカ、ハヤブサの仲間） …… 43
キジ目（キジの仲間） …… 49
ツル目（バン） …… 51
チドリ目（チドリ、シギ、カモメの仲間） …… 52
ハト目（ハトの仲間） …… 64
カッコウ目（カッコウ） …… 66
フクロウ目（アオバズク） …… 68
ブッポウソウ目（カワセミ、ブッポウソウの仲間） …… 69
キツツキ目（コゲラ） …… 75
スズメ目 …… 76
　ヤイロチョウ科（ヤイロチョウ） …… 76
　ヒバリ科（ヒバリ） …… 78
　ツバメ科（ツバメの仲間） …… 79
　セキレイ科（セキレイの仲間） …… 81
　ヒヨドリ科（ヒヨドリ） …… 87

モズ科（モズ）…… 88
カワガラス科（カワガラス）…… 89
ヒタキ科（ヒタキ、ツグミ、ウグイスの仲間）…… 90
エナガ科（エナガ）…… 96
シジュウカラ科（シジュウカラ）…… 97
メジロ科（メジロ）…… 98
ホオジロ科（ホオジロの仲間）…… 99
アトリ科（アトリの仲間）……101
ハタオリドリ科（スズメ）……103
ムクドリ科（ムクドリの仲間）……104
カラス科（カラスの仲間）……106

資料編

天竜川上流で確認されている鳥類 ……114
天竜川上流の鳥類に関する文献 ……118
参考図書 ……121
用語解説 ……124
索引 ……126

おわりに ……128

◆コラム目次◆

天竜川に突然出現したカワウ …… 28
集団でねぐらをとるコサギ …… 33
橋や建物に営巣するチョウゲンボウ …… 47
擬傷（ぎしょう）行動に注意！ …… 54
天竜川で集団繁殖するコアジサシ …… 62
種時（たねま）きを知らせる鳥－カッコウ …… 67
人工巣で繁殖したカワセミ …… 72
ダム湖周辺で繁殖するブッポウソウ …… 74
レッドデータブック …… 77
都市環境に進出するハクセキレイ …… 83
ヨシ原の鳥－オオヨシキリ …… 94
ドングリを運ぶ鳥－カケス ……107
クルミ割り名人－カラス ……110
カラスのねぐら ……112

観察へ出かける前に

【出かける前に注意しておくこと】

◆服装…長そで、長ズボン、長ぐつ、ぼうしが基本です。肌がなるべく隠れるような服装を心がけましょう。

◆天候…天気の悪い日は鳥もあまり活動しません。天気予報や空を確かめて。

◆持ち物…両手が空くように、必要最小限のものを。

◆身体の具合…身体の調子をよく考えて、無理のない行動をしましょう。

【河原で注意すること】

◆足もと…河原は大小の石がゴロゴロしていてとても歩きにくい所です。足もとにじゅうぶん注意して下さい。また、水中の石はぬるぬるしていてとてもすべりやすいので、じゅうぶん注意しましょう。

◆水際(ぎわ)…特に、草がたくさんしげった水際には足を踏み入れないようにしましょう。地面だと思っても、実は水面に草がおおいかぶさっているだけかも知れません。

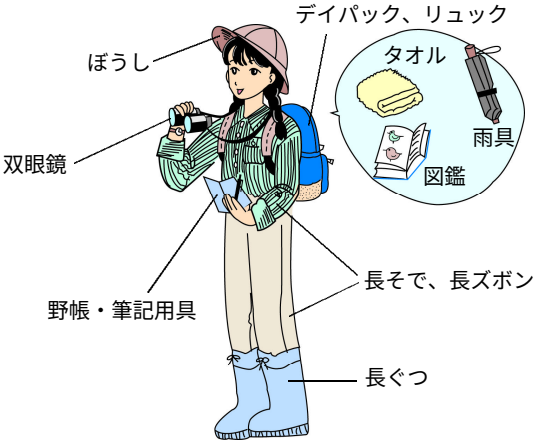
【野鳥観察のマナー】

◆たとえ手が届くところに鳥がいても、絶対にさわらないで下さい。ヒナが地面に落ちていても、拾わないで下さい。必ずそばに親鳥がいますし、落ちているように見えても実際は巣立っている場合が多いのです。

◆春から夏は、川を渡って中洲に入ったり、むやみに草むらにわけ入ったりしないようにして下さい。鳥たちの巣や卵を壊してしまうかも知れません。

◆鳥たちをおどろかさないように、やさしい気持ちで観察して下さい。

【観察用具】



この本の使い方

構　成

本書は、総説、各論、資料編からなります。総説では、天竜川上流のすがたを、鳥類の生息環境という点から解説しました。また、渡りや繁殖期など、鳥類の一般的な生活史を示しました。総説の最後には、実際に野外で鳥を見たとき、何という名前の鳥なのかがわかるための手助けとして、見分け方を検索表にまとめました。各論では、天竜川上流に生息する代表的な鳥類について、詳しく解説しました。また、天竜川の鳥類についてさらに詳しいことが知りたい人のために、資料編として、参考図書やこれまでに天竜川で確認されている鳥のリストを載せました。

種の配列と名前

種の配列（名前の並べ方）と名前（標準和名）は『平成7年度河川水辺の国勢調査生物種目録』（建設省河川局河川環境課監修：平成7年8月）に従いました。

各　論

天竜川上流で確認されている代表的な鳥類70種を、写真と一般的な習性、天竜川上流における生息状況を中心に解説しました。ここでとりあげた種は、①全域で普通に見られる、②数は少なかったり、生息域がかたよったりしていても、天竜川の鳥類相を考える上で重要な種、のいずれかに該当する種です。

各論の記述内容は、あくまでその種の代表的な傾向であるため、特に、分布や生息時期については地域的に、あるいは年によって異なることがある点に注意して下さい。各論の詳しい見方は、24ページに示しました。

コラム

天竜川上流で現在、分布や生活に関して話題になっているテーマについてわかりやすく解説しました。

資料編

これまでに天竜川で確認されている鳥類のリスト、天竜川上流部の鳥類に関する文献、参考図書、用語解説などをまとめました。

「平成7年度天竜川上流部河川水辺の国勢調査－鳥類調査－」について

本調査は、『平成5年度版河川水辺の国勢調査マニュアル（案）（生物調査編）』（建設省河川局治水課、1993）に準拠し、天竜川上流部（辰野町～長野－静岡県境）の10地点を中心に実施しました。

調査の内容は事前調査（文献調査、聞き取り調査）と現地調査に分けられます。事前調査の結果と現地の状況を踏まえて調査地点を設定し、各調査地点ではラインセンサス法を基本として、定点観察や集団分布状況調査などを併せて行い、それらの結果を報告書にまとめました。調査期間と、現地調査地点を以下に示しました。

調査で確認した鳥類のリストは、資料編114ページに掲載しました。

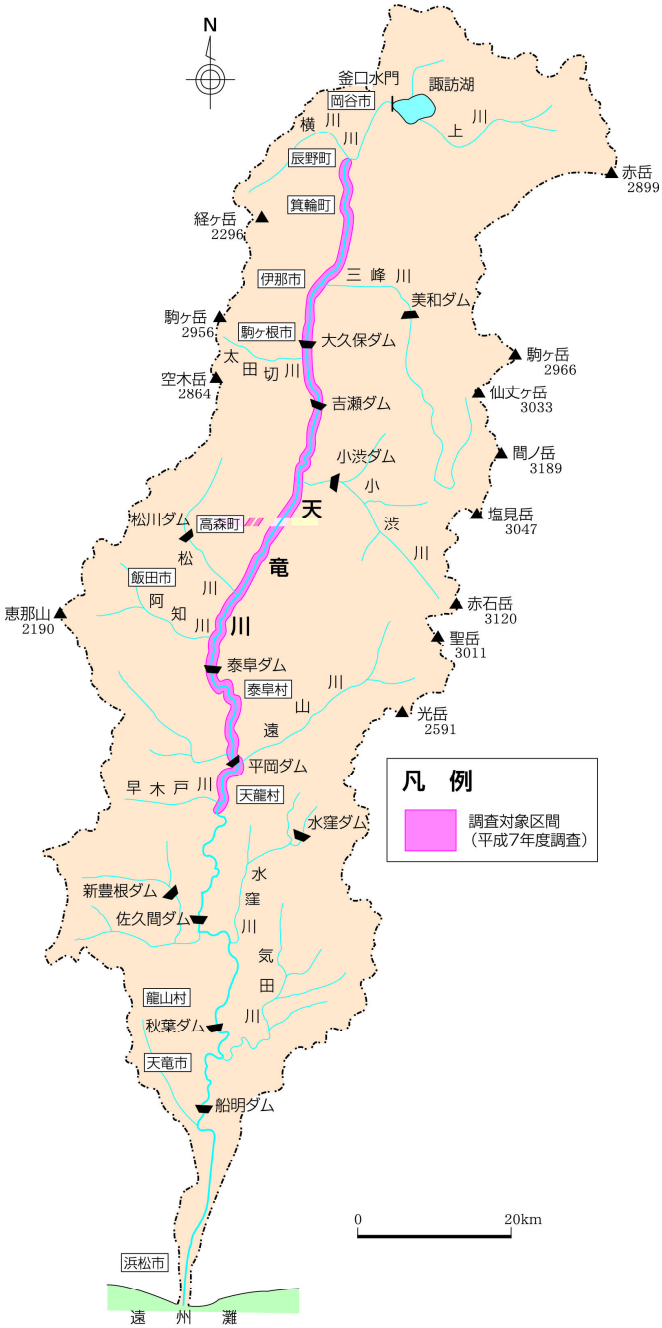
調査期間

秋季Ⅰ…1995年9月下旬～10月上旬
秋季Ⅱ…1995年10月下旬～11月上旬
冬季　…1996年2月上旬～下旬
春季Ⅰ…1996年4月上旬～下旬
春季Ⅱ…1996年5月中旬～6月上旬

現地調査地点

1.平岡橋～羽衣崎(はごろもざき)橋（113.7km～117.0km）
2.為栗(してぐり)橋～南宮(なんぐう)橋上（120.0km～124.0km）
3.姑射(こや)橋～天竜橋（139.3km～142.0km）
4.松川合流上～阿島(あじま)橋（148.0km～151.0km）
5.松川天竜橋～北島下島取水堰（162.0km～165.4km）
6.中田切川合流～宮沢川合流（176.0km～179.0km）
7.北の城(じょう)橋～藤沢川合流（185.3km～188.0km）
8.殿島(とのしま)橋～毛見(けみ)橋（189.5km～192.5km）
9.箕輪橋～深沢川合流（201.5km～205.0km）
10.相合(あいあい)橋下～城前(しろまえ)橋（209.3km～212.5km）

※（　）内の数字は天竜川河口（静岡県浜松市）からの距離


N
釜口水門
諏訪湖
岡谷市
横川川
上川
辰野町
赤岳
2899
箕輪町
経ヶ岳
2296
伊那市
三峰川
美和ダム
駒ヶ岳
2956
駒ヶ根市
大久保ダム
駒ヶ岳
2966
太田切川
空木岳
2864
吉瀬ダム
仙丈ヶ岳
3033
小渋ダム
間ノ岳
3189
小渋川
天竜川
松川ダム
高森町
塩見岳
3047
飯田市
松川
阿知川
恵那山
2190
赤石岳
3120
聖岳
3011
泰阜ダム
泰阜村
山川
光岳
2591
遠
平岡ダム
早木戸川
天龍村
凡　例
調査対象区間
（平成7年度調査）
水窪ダム
水窪川
新豊根ダム
佐久間ダム
気田川
龍山村
秋葉ダム
天竜市
船明ダム
0
20km
浜松市
遠州灘

天竜川流域図